

河川水域特産資源管理対策事業

ホンモロコ養成・放流試験

鈴木博也・森脇晋平

ホンモロコは宍道湖淡水化後の魚種転換対策魚として導入された。種苗生産技術開発試験の成果により産卵生態もほとんど解明され、現在では種苗の大量生産も安定化している。

しかしながら、昭和63年に水質悪化への懸念から中海・宍道湖淡水化事業は延期という事態を迎えるに至った。したがって、本種導入の本来の目的のうちの大部分は失なわれたわけであるが、引き続き養成試験を実施し、併せて溜池や人工湖を有効に利用するという目的で移植試験を行い、遊漁などの可能性を検討することにしたので、その概要を報告する。

1. 当分場の養成親魚1～3年魚、約5万尾から採卵、ふ化、飼育した。これらの方法は前年度からの手法に準じて行った。

2. ふ化した稚魚を3面の養成池に分配し、飼育中であるが、これまでの調査結果と比べ特に異なった点あるいは注目すべき点は見当たらなかった。

3. 前年度生産した1～2年魚を10月19日に神戸川上流部の来島ダム上流地域に放流した。放流数は約13,400尾で、平均体長1年魚：47.0mm、2年魚74.8mmであった。